

1 学校教育目標

教育基本法の理念、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」に基づき、綱領「向学、誠実、敬愛」の具現化に努め、21世紀を担う有為な人材の育成を目指す。この目標達成のため本年度の学校経営目標を以下のように定め、知・徳・体の調和のとれた「求める生徒像」の実現に努める。

「希望が輝く学校」**(1) 理想とする教育理念**

綱領「『向学』以って真理を求め『誠実』以って責任に徹し『敬愛』以って礼儀を正す」の具現化に努め、「不安定で予測不能な未来」であっても、柔軟に対応できる、21世紀社会において有用な人材の育成に努める。

(2) 求める生徒像**ア「文武一体」の体現**

自ら将来や課題について主体的に考え、進路実現や自己実現に向け、ひたむきに努力を行い目標に向けてやり抜く力を持った生徒。

イ「凡事徹底」の精神

あいさつや掃除の徹底など、基本的な生活習慣を身に着け、人との出会いを大切にし、自己の研鑽を継続できる生徒。

ウ「恕」の心

命の大切さや自然を慈しむ心を持ち、他者を思いやる健全な人権感覚を身に着け、多様な価値観を受け入れることができる生徒。

2 本年度の重点目標**ア 学力の向上と進路指導の充実**

生徒自らが主体的に目標を設定し、教職員の援助を得ながら、自己実現に向かって邁進するための学力の定着と指導の徹底を図る。

イ 部活動の活性化と自主性の尊重

各部活動の活性化を通し、生徒の「人間力」を高め、規範意識を確立し、学校・家庭・地域社会への感謝の心を醸成する。

ウ 「あいさつ」「そうじ」等を基盤にした生徒指導の徹底

「他者とのつながり」の「他者への感謝」の心を重視し、あいさつ・そうじといった基本的な生活習慣を徹底させ、社会に認められる人材を育成する。

エ 「思いやりの心」「慈しむ心」を育む道徳教育・人権教育・特別支援教育の推進

SDGsの理念を理解し、多様な価値観を認め、社会の形成者として、主体的に社会に参画しようとする態度を育成する。

学校教育目標及び目指す教職員像**ア 学力の向上と進路目標の向上に向け、授業力の向上に努める教職員****イ 生徒の自主性を基盤とした部活動の活性化を通じた活みなぎる学校****ウ 生活指導を通して、生徒の規範意識を醸成し、主体的に行動する生徒を育成する学校****エ すべての教育活動において、生徒の人権が尊重される学校**

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
学校経営	学校力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	本校の教育課程の課題を明確にし、令和4年度以降の体制を決定する。校務分掌間の連携を深め、コミュニケーションの充実や各学年部とそれを支える各分掌、教科との連携を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からのOCMPT委員会において校務分掌をまたいだ内容を議論する。特に多様な進路希望に対する教育課程を含めた議論を進める。 	A	<p>○コロナ禍での各行事への検討を行い、行事内容の精査にもつながった。(教職員:共通理解と連帯感9割を越えている。)</p> <p>△OCMPT委員会で教育課程及び探究活動を検討し、熊本スーパーハイスクール(KSH)構想でのイノベーションハイスクール指定校としての取り組みを進める。</p>
		生徒の夢実現のための取組	部活動の振興を図り、生徒が生き生きとした学校生活を過ごすことで、9割の生徒が「入学して良かった」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の支援体制の整備を図り、全校応援等を通じて本校における生徒の「大高魂」を高める。 	A	△コロナ禍で体育大会や文化祭、部活動の大会での無観客開催や感染防止に取り組み、ダンス発表会やクラスマッチ、チャレンジ大会等を実施させた。(生徒の入学して良かったとの回答が8割3分と目標を下回った。)
	魅力の情報発信	ホームページの充実と学校便りの発行	本校の取組や生徒の頑張りをホームページで随時紹介し、7割の保護者が「ホームページが充実している」と回答する。また、学校便りの発行等を通して、近隣の中学校等へ本校の取組を周知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各科、コース、部活動等の結果をPRし、情報を随時更新する。 ・学校便り(美コース便り等)を学期毎に作成し、近隣の中学校等へ掲示を依頼する。 	A	<p>○生徒の学校での活動を適宜ホームページやPTA新聞で伝えることができた。(保護者:ホームページが充実と8割6分が回答)</p> <p>○各科・コースの情報を学校便り(科・コース便り)として作成し、近隣の学校説明会で配付できた。</p>
	業務改革働き方改革	勤務時間打刻調査による時間外勤務時間の減少	業務の偏りを無くし、勤務時間外業務時間を減らす。また、職員が生徒と向き合える時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各校務分掌で「校務内容見える化表」を作成する。業務の偏りを確認し、主任主事が年度内に調整する。 ・日課表を見直し、放課後の時間を確保する。 	A	<p>○各校務分掌で業務の見える化シートを作成し業務内容を整理し、業務の見直しに役立った。また、次年度の校務分掌の人数配置の検討に役立った。</p> <p>○時間外勤務時間調査では、昨年度に比べ改善が見られた。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
学力向上	基礎学力の向上	分かる授業の展開	基礎基本の定着と生徒の学習意欲の向上を図る授業を展開し、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 各テストを授業へ反映させ、基礎基本の徹底を図る。 外部での研修や校内外の公開授業等へ積極的に参加し、授業力向上に努める。 	A	○1・2年生の数学、英語では展開授業を行い、基礎基本の徹底に重点を置き、応用力の育成も図った。(「授業は丁寧で分かりやすい」の回答が8割3分あった。)
		学習習慣の確立	自主的・自発的な学習の支援を充実し、生徒の学習習慣が定着する。(1・2年は2時間、3年は3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を行い、個に応じた家庭学習について指導する。 スタディサプリやClassiの活用を図る。 家庭学習時間の調査を行い、定期考査や模擬試験結果との相関関係を調べる。 	A	○担任を中心に日常的な個別面談や個別学習指導を日々行うことができた。「個別の質問などに熱心に指導してくれる」の生徒の回答が約9割。 △「学習習慣が身に付いた」の回答が7割で昨年度より向上したが、十分ではなかった。
	授業の充実	研究授業等の実施	研究授業の実施や外部公開授業や研究会への参加等で授業の改善を図り、8割の生徒が「授業は丁寧で分かりやすい、授業は自分の興味・関心を高めてくれる」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回研究授業と公開授業週間等を実施する。 全職員が学期1回以上授業を参観する。 スーパーティチャーの活用を進める。 	A	○初任者研修研究授業や英語科における中学校との連携授業研修等を実施した。全教科の研究授業は実施できなかったが、リモート授業の対応など新たな実践が進んだ。 ○「授業は丁寧で分かりやすい」の生徒の回答が8割3分あった。 ○スーパーティチャーによる授業改革研修を実施した。
キャリア教育(進路指導)	進路指導の充実	自己実現への意欲の喚起	生徒・保護者に対する進路情報の提供、大学等との連携等を通し、進路意識の高揚を図り、8割の生徒が「進路志望先を定めその達成のための努力をしている」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 「進路の手引」を充実し、新大学入試制度に対応できるものとしている。一年次から面談や家庭訪問等でその活用を図り、進路意識の高揚に努める。 大学や専門学校等と連携し進路ガイダンス、進路講演会等を充実する。 新大学入試制度への対策として、新テストに向けた授業改善や1、2年生の朝の課外授業を早期に開始する。 	A	○3年生では、「進路の手引き」の卒業生のデータや模擬試験等の資料を面談等で活用し、適切な進路指導ができた。 ○大学の出前授業は、1、2年生の多くが参加し、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。(「進路指導が充実している」の生徒の回答8割5分)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	進路指導の 充実	個別指導の 充実	個に応じた指導体制の充実を図ることで、生徒一人一人の進路意欲が高まり、8割の生徒が「進路実現に向けての個別指導が充実している」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通し生徒の進路について意識を高めるとともに、個々の生徒の目標について情報の共有を行う。 ・学年を中心に生徒に応じた目標の設定と個別指導の計画、教科と連携した指導体制を確立する。 ・Classiの活用を図る。 	A	<p>○一斉授業と並行させながら、応用力を高める個別指導を充実させることで、各学年の対外模擬試験等で成果をあげることができた。また、3年においては総合型選抜、学校推薦型選抜入試において合格に繋がった。(生徒：個別質問に熱心に指導と回答約9割)</p> <p>△Classiのを用いた自宅での視聴時間をあまり延ばすことができなかった。</p>
生徒指導	健全な心身の 育成	基本的な生活習慣の確立	あいさつや掃除、言葉遣い、身だしなみの整備、交通ルール・マナー等、凡事徹底の積極的な実践によって、8割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。携帯電話、スマートフォン等の適切な使用方法の定着を図り、8割の生徒が「ルールを守っている」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声かけを実践し、生徒の情報の共有化と学年との連携強化を図る。 ・HR、集会を通した指導の徹底を図る。 ・定期的に登下校時の街頭指導と交通安全教育を実施する。 ・生徒会、PTAと連携し、ルール「午後10時以降のスマホ・携帯電話の使用禁止」を徹底する。 	A	<p>○登校指導での声掛けとあいさつ指導や、各HRや集会等で継続的な服装指導を実施することで、今年度は指導対象者が減少した。</p> <p>○職員間の共通理解を図る研修を実施し、年間を通して統一した指導ができた。生徒も必要性を理解している。(生徒：生徒指導の必要性の理解と回答8割)</p> <p>○生徒の交通安全意識は高く9割5分の生徒が交通ルールやマナーを守っていると回答。</p> <p>○スマートフォン利用に関する専門家を招いての講話等が実施できなかった。昼休み等での校内での無断使用が減少した。しかし、約5割の生徒が家庭や学校のルールを守っていない現状がある。</p> <p>△盗難等の事案は減少したが、貴重品の管理について継続的な指導が必要である。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
生徒指導	健全な心身の育成	生徒会活動、ボランティア活動の充実	自主的な行事等の運営と校外のボランティア活動への参加を促し、8割の生徒が「積極的に参加している」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒参加型の企画運営を行い、各種ボランティア活動の紹介と参加を促す。 	A	<p>○体育大会や文化祭、クラスマッチなど、生徒会が主体となり、企画、調整、運営を行った。</p> <p>○職員間の共通理解を図る研修を実施し、年間を通して統一した指導ができた。生徒も必要性を理解している。(生徒:生徒指導の必要性の理解と回答8割)</p> <p>△校則について、生徒会と生徒指導部、PTAとで意見交換の場を持った。</p>
		健康教育、環境教育の充実	保健委員会活動の充実や積極的な美化活動への取組、学習環境の改善に向けての意識の喚起を図り、8割の生徒と教職員が「校内美化やエコ活動に取り組んでいる」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 保健、美化委員会を中心とした掃除の方法等の紹介や環境教育の充実に努める。 日課表の変更に伴う掃除時間の変更に対して保健部会において、状況を把握し、各学年やクラスでの環境美化に努める。 	A	<p>○学習環境整備プラン(SSK-P点検)の評価項目や各クラスとの事前事後の連携等を確実に実施し、学習環境への意識向上へと繋げた。</p> <p>○美化委員会と保健委員会を中心として、掃除方法等の紹介や環境教育の充実に努めた。(エコ活動に取り組んでいると回答、生徒:約8割)</p>
人権教育の推進	人権尊重の意識の向上	人権教育の充実	自他の命を大切に作る心の育成と、人権問題を意識した教育活動について、8割の教職員が「積極的に実践している」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の視点を踏まえた授業の実践を行うとともに人権教育LHRを中心とした人権問題啓発に係る取組の充実に努める。 	A	<p>○人権教育推進委員会、学年会での事前検討会で内容の確認と検討を行い、生徒の感想から学習の充実に繋げている。人権教育への取り組みは、生徒の8割以上が学校の取り組みは積極的であるとしている。</p>
		職員研修の充実	個別の教育支援計画、個別の指導計画を完備し、配慮を要する生徒を支援するための情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会(管理職を含む)を毎週実施し、内容の充実に努める。 情報の共有化並びに教職員の意識を高めるため学期に1回職員研修を実施する。 	A	<p>○継続して個別の支援計画等を作成し、授業担当者や外部機関の観察から得られ、支援内容について検討を行った。</p> <p>○生徒理解研修を、毎学期実施し、情報を共有することで事後の指導に生かした。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
人権教育の推進	命を大切にす る心の育 成	プログラムの改善と実践	自他の命を大切に する心の育成 を意図する教育 活動を教職員全 員で実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が、自らの教育活動の機会を捉えて、自他の命を大切にすることについて学期に1回生徒に語る場面を設ける。 	A	<p>○「怒の心ウイーク『心のきずなを深める月間』」を実施し、命の大切さを学ぶ教室などを通して、教職員の意識の向上、生徒の心の教育を図った。</p> <p>○人権教育、道徳教育、いじめなどの根絶に学校が積極的に取り組んでいると8割以上の生徒が回答している。</p>
いじめの防止等	いじめをしない、させない、許さない姿勢の確立	いじめの未然防止	自己肯定感を高め、他者理解を深める教育活動を実践することで、9割の生徒が「学校は楽しい」と回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに面談句間を設け、生徒の困り感や不安を聴き取り、生徒理解に努める。 ・学期に1回、いじめの防止等に関する職員研修を実施する。 ・体験活動、ボランティア活動を通し、自己有用感を涵養する。 ・学年毎に生徒の実態を踏まえ、自己肯定感や他者理解を高めるストレス対処教育に係るLHRを実施する。 ・SNS等が適切に使用できるよう情報モラルを高める取組をLHRや全校集会等の機会を捉えて実施する。 	A	<p>○「心のアンケート」や教師への相談、スクールサインによる発見がほとんどであることから、我慢せずサインを出しやすい学校の雰囲気であると思われる。</p> <p>○いじめの認知については、対策委員会を学期に1回開催し、SCにも専門的見地から助言を頂いた。また、職員間の連携や共通理解を高めるために、学年会等を利用して生徒理解を深めた。</p> <p>○いじめの認知件数が前年度比で減少傾向にある。</p> <p>○全校集会や学年集会、LHRやSHRでSNSの適正使用を指導した。</p>
		いじめの早期発見	いじめの早期発見につなげるため、「心のアンケート」を実施し、積極的ないじめの認知に努めるとともに認知したいじめ事案の早期解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1回「心のアンケート」を実施し、その結果については、速やかに事案の検証と認知に努める。 ・担任による個別面談等をこまめに実施する。 ・いじめに係る相談窓口について生徒・保護者に周知する。 	A	<p>○いじめと認知した事案については、担任・学年・生徒指導部・保健部と連携し、早期解決に努めた。</p> <p>○担任や学年主任との面談を随時行い、必要な場合はSCとの面談も実施した。アンケートや面談からいじめ事案が発見され、生徒が我慢せず相談しやすい環境にある。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(△)
大項目	小項目					
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の設置	地域や各機関との連携を生かした学校運営	目指す教育像に向け、本校の魅力や課題を協議し改善する。定員充足率を9割にまで上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善、シラバスの作成と公表、教育課程の検討、ICT活用の為の職員研修を行い、ホームページやclassiを含めた情報発信を充実させる。 各学科コースに応じた地域連携の実践を充実させる。 	B	<p>○今年度から「学校運営協議会」(総合型CS)を設置し、地域との連携を深めてきた。しかし、コロナ禍で9月、2月の開催ができず書面での対応となった。</p> <p>△学校運営協議会の委員の意見を参考に今後の学校運営に生かしていく。</p>
	防災教育の推進	生徒の防災対応能力の向上	カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた安全教育の充実を図る。生徒自身が状況を判断し、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を身に付ける。自助だけでなく、共助の姿勢を持ち、安全な社会づくりに参画し、社会貢献に対する公助の意識や社会への帰属意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育や避難訓練、防災新聞や防災マップの作成、防災講話を通して、生徒の防災意識の更なる高揚を図る。 防災主任を中心に防災教育の充実を図り、地域と連携した防災避難訓練等、体験的学習を取り入れる。 	A	<p>○防災主任による学年毎にLHRにおいて、昨年7月の豪雨災害を振り返る防災学習を行った。生徒のみならず職員にも自然災害メカニズムや、災害時の注意点などを説明することで、自然災害に対する意識改革等を図った。</p> <p>○保健部と連携しながら避難訓練を実施した。訓練の意義を説くなど、適時に指導を行うことで、災害時の自分の役割を意識させることができた。</p>

4 学校関係者評価
<p>学校評議員会委員の主な意見</p> <p>○「学校の教育目標は明確で、保護者・地域によく理解されている」の「よく当てはまる」の回答の評価が他の項目より低いようである。さらなるアピールが求められているのかと思う。</p> <p>○「大津高校に入学して良かった」の生徒回答が多数で素晴らしいと思った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の中でも、出来ることをしっかりされた事がよく分った。細部に渡りきっちり分析されており、有意義なデータだった。反省を踏まえて、さらに素晴らしい学校に成長してもらいたいと願います。あまりにも多く様々な事柄に取り組みされているので、コロナ禍をきっかけに見直し、整理することも必要かと思えます。</p> <p>○先生方の評価も高く、働く人が充実した職場だと感じていることが素晴らしいと思う。</p> <p>○携帯・スマホ等の使用に係る生徒の評価結果が低いようである。これは、町内の中学校においても同様に課題となっている。保護者・地域を巻き込んだ、小中高連携の取組が出来ればと思います。</p> <p>○生徒や保護者からの意見が多々あっても、先生方は遠慮無く高評価を付けて良いと思う。</p> <p>○広報活動よりも小中学校との連携した教育活動に力を入れた方がよい。</p> <p>○各校務分掌あるいは事業等の評価が高く、それぞれに頑張っており取り組まれた成果だと考えます。この評価を踏まえた、来年度の目標設定や企画等が大切であろうと思います。</p> <p>○コロナ禍での行事の中止など、生徒の心のケアが必要である。</p> <p>○今後、大津町、菊陽町は経済発展が予想される。地元企業との連携はとても大切である。</p> <p>○中高連携を今後も継続、発展させて欲しい。</p> <p>○高校生の視点から考えた「町づくり」や「町の活性化」等の調査・提案を期待している。</p> <p>○人材育成にはその道のプロの指導が不可欠である。生徒一人一人の細かなニーズに応えられる人材を卒業生や地域の中から探しマッチングさせることが大事だと思う。</p>

5 総合評価

新型コロナウイルスが異種株へ変異しながら、感染拡大と収束を繰り返す中、学校行事等は適宜感染拡大防止措置を講じながらできる限り実施した。体育大会や文化祭等無観客での開催であったが、YouTube等の配信を行った。また、入学式や卒業式では、来賓や在校生の参加はできなかったが、保護者を迎えての式を挙行することが出来た。しかし、修学旅行においては、感染のリスクを考え、1年生は次年度に延期し、2年生は残念ではあるが中止を決定した。

授業においては、時差登下校や時短授業を行い教育活動の維持が出来た。3学期の学年末考査時期に、全国的なオミクロン株の感染拡大により1学級閉鎖をし、1学級のみ考査日程の変更を行った。

部活動においては、熊本県内リスクレベルの変化により、日常の練習や県内練習試合、県外遠征などの規制があり、十分な練習が出来たわけではなかったが、公式試合は開催された。そのような中で、サッカー部が冬の選手権大会で全国準優勝の結果を残し、本校関係者、大津町、熊本県の多くの方々に感動を与えてくれた。

生徒会も主体的な活動が多く見られ、文化祭や卒業式での演出、クリスマスツリーの制作、校則や制服について生徒指導部やPTAと話し合いをするなど、生徒自らが楽しい学校生活をおくるための提案をしていた。ホームページで紹介した様々な学校の様子が評価されるべき活動である。

今年度の重点目標の4つの実践については以下のとおりである。

ア 学力の向上と進路指導の充実

担任を中心に日常的な個別面談や個別学習指導を日々行うことができた。また、1・2年生の数学、英語では展開授業を行い、基礎基本の徹底に重点を置き、応用力の育成も図った。一斉授業と並行させながら、応用力を高める個別指導を充実させることで、各学年の対外模擬試験等で成果をあげることができた。また、3年においては総合型選抜、学校推薦型選抜入試において合格に繋がった。

イ 部活動の活性化と自主性の尊重

日課を変更し、放課後の時間を確保することで、平日の部活動の活動時間や職員と生徒との面談等の時間が確保された。体育大会や文化祭、クラスマッチなどでは、生徒会が主体となり、企画、調整、運営を行った。

ウ 「あいさつ」「そうじ」等を基盤にした生徒指導の徹底

登校指導での声掛けとあいさつ指導や、各HRや集会等で継続的な服装指導を実施することで、今年度は指導対象者が減少した。職員間の共通理解を図る研修を実施し、年間を通して統一した指導ができた。生徒も必要性を理解している。美化委員会と保健委員会を中心として、掃除方法等の紹介や環境教育の充実に努めた。

エ 「思いやりの心」「慈しむ心」を育む道德教育・人権教育・特別支援教育の推進

「怒の心ウィーク『心のきずなを深める月間』」を実施し、命の大切さを学ぶ教室などを通して、教職員の意識の向上、生徒の心の教育を図った。担任や学年主任との面談を随時行い、必要な場合はSCとの面談も実施した。アンケートや面談からいじめ事案が発見され、生徒が我慢せず相談しやすい環境にある。

6 次年度への課題・改善方策

○イノベーションハイスクール事業への取り組みに向けた「総合的な探究の時間」と理数科の「課題研究」の計画を組織的に進める。その中で、地域人材や企業との連携を深める。

○業務改善と働き方改革を進める。

○新教育課程におけるシラバスと評価の見直しを進める。

○授業や家庭学習において、ICT機器の活用をさらに進める。

○日課表の見直しと部活動、放課後の活用を充実を図る。